

おじゃまします

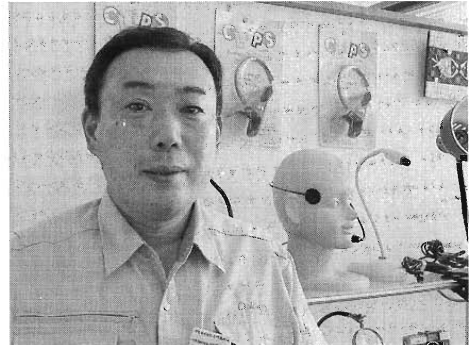
さかき新企業人インタビュー⑤

みやざわおきみち
宮澤興道さんプロフィール

株式会社大門製作所 代表取締役社長

昭和33年生まれ。丸子実業高校卒。都内の取引先企業で約10年勤めた後、ふるさとに戻り大門製作所に入社。サラリーマン時代に培った営業ノウハウを生かし新規開拓や新製品開発などに携わり、平成18年、代表取締役社長に就任。好きなスポーツは野球とゴルフだが、「最近では家で息子さんと遊ぶことが多い」とか。高校時代に親しんだアコースティックギターを時々弾く楽しみも。

国内外で高い評価を受ける 専門メーカーの技術力は、 柔軟かつ前向き思考の賜物



電気スタンドや卓上マイクなど、私たちの身近な製品にも使われるフレキシブルチューブを製造する県内唯一の専門メーカーが大門製作所。国内外からその高い技術力を評価される同社の2代目社長、宮澤興道さんにお話を聞きました。

——御社がメインで製造されているフレキシブルチューブとはどのようなものですか。

「電気スタンドや卓上マイク、クロホンなどで使われる自由自在に動かすことが出来る金属製支柱のことです。フレキシブルチューブの歴史は古く、第2次世界大戦前のドイツでヒトラーがマイク演説をした時に使われたのが最初だそうです。現在では音響機器や照明器具、医療・健康器具など幅広い分野で様々なタイプ、大きさのものが使われています」

——専門メーカーとして製品作りでのこだわりは？

「海外から安価なものがたくさん輸入され、様々な製品があるなか、私たち専門メー

カーのこだわりはあくまで品質です。例えば卓上マイク、クロホンの場合、雑音やきしみ音があつてはならないし、曲げる際は些細な音もマイクが拾わないよう静かですムーズに可動しなければなりません。口元に持つとくるときに曲げやすく、かつその状態を確実に固定・保持できることも欠かせません。材質や加工方法など常に試行錯誤を繰り返して、技術の向上に努めています」

——そうした高い技術力が評価され、長野五輪開会式で天皇陛下が開会宣言をされたご専用マイク、クロホンにも採用されたのですか。

「そうです。しかしこんなこともありました。今から5、6年前、中国の人民大会ですが、当社のフレキシブルチューブを使ったマイク、クロホン約200本が江沢民主席はじめ幹部の前に置かれました。そのセンターマイク、つまり江沢民さんのマイクの位置を決めても跳ね上がってしまい、結局200本すべてを取り替えて事なきを得ました。いい教訓になりましたね。『国

家間の重大事件に発展しかねない』などとおどかさされ、冷や汗ものでした(笑)」

——他に真似できない技術を持つ御社だからこそそのスケールの大きなお話ですね。国内有数の専門メーカーとして今後の展望は？

「フレキシブルチューブ自体は製品の中の一つのパーツです。当社ではチューブ製造だけでなく取付け金具も組み立てて納品することが多いのですが、そこで習得したノウハウを生かして当社オリジナルの完成品(市販品)を増やしていきたいですね。一方、取引先の製品開発の初期段階からお手伝いさせていただけるよう、高い付加価値を持った提案型営業にも力を入れていきたいと思っています」

——最後に宮澤さんの motto をお聞かせください。

「O型人間なので、まあ楽天的というか、明るく前向きにやっつけていこうと(笑)。社員は家族であり、チームですから、皆が同じ方向を向いて、前向きに楽しく仕事しよう、が motto です」